



法人会とライオンズクラブ車いす贈呈 (3月14日)

富良野地方法人会南富良野支部(永井敏広支部長)と富良野ライオンズクラブ南富良野支部(下田憲コーディネーター)による地域への社会貢献活動の一環として、一味園(間木野博美園長)へ車いす5台が寄贈されました。間木野園長より「背もたれの角度調整ができ、利用者の体格や体の状態に合せられる車いすを寄贈いただき感謝致します。大切に活用させていただきます」とお礼の言葉を述べました。寄贈された車いすは、利用者が実際に試乗され乗り心地が良いと話されていました。



地域の皆さんありがとう (3月14日)

北落合小学校(石黒雄治校長)では、雪んこ集会が行われました。今年度もPTAと地域青年部が中心となって、大きなかまくらづくりを行い、雪んこ集会を盛り上げていました。子ども達は、雪像作りに取り組み、完成後には、かまくらの中で、PTAが調理した豚汁、そして焼き肉を参加者とともに食べ、雪山でのソリ滑りやスノーラフティングで、残り少ない冬を満喫しました。最後に児童6名が、これまでお世話になった地域の皆さんにお礼の言葉を述べていました。

会長杯で熱戦を繰り広げる (3月16日)

南富良野カーリング協会(三橋基晴会長)が主催する「第20回南富良野協会会長杯カーリング大会」が空知川スポーツリンクスで開催されました。カーリングシーズンも終盤を迎え、大会には、町内の小学生からシニアまでの愛好者4チーム17名が参加し、リーグ戦を行い熱戦となり、3勝した「南ぶレディース」が中学生・高校生を主体とする「Snow world」を破り、優勝を果たしました。
○成績
優勝：南ぶレディース
準優勝：Snow world
第3位：なんぷシニア



火文字「絆」鮮やかに (3月15日)

南富良野スキー連盟やスキースポーツ少年団などで構成する「南ふらのスキー場活性化実行委員会」(高松昌弘実行委員長)が、東日本大震災から3年を迎えたことから火文字「絆」を国設南ふらのスキー場に灯し、犠牲者を追悼しました。火文字の大きさは縦約150m、横約70mもあり、灯油を入れた缶約800個をグレンデに配置し、実行委員会関係者ら約70名が黙とうをささげた後、上から順次点火し大勢の方が見守る中、打ち上げられた花火と共に鮮やかに浮かび上がりました。

このコーナーでは、地域や学校で行われるイベント行事などを紹介します。皆さんの身近で行われている楽しい催しなどありましたら、企画課広報統計係(☎52-2115)までお知らせください。

カメラレポート CAMERA REPORT



町文化協会ふくしあ・一味園を慰問(2月23日)

特別養護老人ホームふくしあ(大宮光明園長)と特別養護老人ホーム一味園(間木野博美園長)では町文化協会(阿部巖代表)の慰問が行われました。この日は、舞踊「酔ごころ」や三味線「花笠音頭」「津軽じょんから節」民謡、カラオケなど計10人による17曲が会場に響きわたり、利用者も一緒に歌を口ずさんでいました。

下金山小児童雪と楽しむ集会(2月28日)

下金山小学校(富澤将志校長)では、地域の自然や雪を生かしたレクリエーションに親しむ機会を設け、寒さに負けない体力づくりを目的に同校グラウンドにおいて「雪と親しむ集会」が開催されました。集会では、児童が考えた雪中ゲームを始め、スノーラフティングを楽しみ、チョコレート作りを行い、あたりが暗くなってからは、児童が自ら作成したろうそくでアイスクャンドルに点火、児童のみなさんは、灯されたキャンドルをしばし眺めていました。



「いのちと献血俳句コンテスト」で全道一(3月3日)

「うぐいすも マラソンのほく おうえんし」
日本赤十字社第8回「いのちと献血俳句コンテスト」において南富良野中学校1年の佐藤勝利君の作品が全道の個人部門(中学生の部)で最高賞を受賞をされ、この度北海道赤十字血液センター帯広出張所長桑原昭氏から、全校生徒の前で表彰されました。全道から2,302人、6,918句の応募があった中からの受賞に佐藤勝利君は「大変うれしく、今後は色々な場面でも活躍できるように頑張りたい」と話していました。



空知川・昔の魚の話を語り合う(3月13日)

金山ダム水源地域ビジョン推進連絡会(平塚麻利子代表)による、かなやま湖周辺の昔を知る勉強会「空知川・昔の魚の話」が情報プラザで開催されました。勉強会には16名が参加し、幾寅在住の佐々木薫氏と今野角夫氏が語り部を務め、空知川・昔の魚の話を語り合いました。金山ダム管理支所職員も参加し、昭和の初期時代から現代までの写真がスクリーンに映し出され、空知川及び松井川などの移り変わりや、昭和42年の金山ダム建設前と後での獲れた魚の変化や当時の川遊びや巨大なイトウの様子などを懐かしく振り返りました。